

高等学校第1学年「コミュニケーション英語Ⅰ」学習指導案

日 時 平成27年10月30日(金)第2限

授業者 教育センター所員 相島 倫子

1 単元名

Lesson 5 “Teammates”

2 教材

教科書 PROMINENCE Communication English I (東京書籍)

3 教材観

黒人初のメジャーリーガーである、ジャッキー・ロビンソンを扱った読み物である。当時の黒人差別の実態や、ジャッキーの気持ちの揺れを正確に読み取ることで、彼の差別に屈せず、黒人への門戸を開こうとする先駆者としての信念の強さを感じさせると同時に、国際社会を生きる者の在り方を生徒一人一人に考えさせる題材である。

4 生徒観

文系クラスで、明るく、ペアやグループが作りやすい雰囲気がある。教師の説明や指示を聞く姿勢や、教師の指示に対する反応が良い。英語学習においても意欲的で、知識・技能の習得に熱心である。コミュニケーション英語Ⅰの授業はほぼ英語で行われているが、7割以上の生徒が「6割以上は授業内容を理解できている」と答えている。自分の苦手な力は「話す力」、次いで「聞く力」という認識があり、「一番身に付けたい力」という質問に対し、最も多くの生徒(24.3%)が「話す力」と回答し、「二番目に身に付けたい力」として「聞く力」を挙げた生徒が最も多かった(22.5%)。また、Show & Tellを行った感想として、「自分で考える活動が楽しい」、「達成感がある」と答えており、自己表現活動に関心が高く、聞いたり話したりして実践的なコミュニケーション能力を伸ばしたいと考えている生徒が多いと言える。

5 指導観

本単元のゴールを、ペアによるインタビュー活動の発表とする。当該人物に関する語りで構成される物語を対話文に変換させ、インタビュアーとジャッキー・ロビンソンに扮してインタビュー活動を行わせる。発表までの指導過程において、音読や意見の交換、スクリプトの作成など様々な言語活動を経験させながら4技能を総合的に指導する。発表する対話文に盛り込む内容は、テキストから得た情報と、テキストの主題を深く読み取って感じた生徒自身の感想や意見とする。そのために、主にリーディングを通して、①生徒にテキストの内容を的確に理解させること、②自分とテキストとのつながりを強く感じ、読み取った内容を自分に反映して思考させることをねらいとし、次のⅠ～Ⅲの3点に留意して指導を行う。また、ICTを取り入れることで、円滑なコミュニケーションの遂行が期待できる。学習用PCを用いてペア・ワークに取り組みせ、互いの意見を交換、共有させることで、自分の読みや考えがさらに深まり、豊かな表現につながると考える。協力してよりよいものを作り出そうとする意欲も生まれ、学習効果も高まると考える。

I 理解を深め、思考を促すための発問構成

発問を工夫し、生徒の背景知識を活性化したり、場面をイメージして全体像をつかませたりする。また、語彙・文法・文構造を把握しながら、テキストに書かれている情報を正確に理解させるような発問を行う。さらに、テキストの主題に関わる部分や、多様な捉え方ができるものを問いかけることで、生徒に自分とテキストのつながりを強く感じさせ、生徒の豊かな表現を引き出したい。

II 自己表現につながる音読活動

音読には、学習した語彙や文法などを内在化し、表現活動のための発表能力の基礎を築く効果があると考える。テキストの理解の指導後の音読の繰り返しは、生徒の直読直解の力を高め、リスニング力の向上にもつながると考える。音読のバリエーションを工夫し、生徒がテキストを主観的に捉え、豊かな表現を産出できるような手立てを行う。

III リーディング指導の段階に応じたICTの活用

リーディング指導の各段階(pre-reading, while-reading, post-reading)に応じて、ICTの効果的な活用を試みる。「生徒の背景知識を活性化させる」、「生徒にテキストへの興味を持たせる」、「生徒の読みを深める」、「読み取った内容を基に自分の考えを表現させる」などの目的に合わせ、ICTを有効に活用する。

6 単元の目標

- ア ペア・ワークに積極的に参加し、互いに協力しながら会話を続ける。
- イ 対話文の形式で、テキストに関する情報や自分の意見を話したり、書いたりする。
- ウ 登場人物の言動やその理由などを捉え、概要や要点を読み取るとともに、読んだ内容について感想を述べるができるように、批判的に読む。
- エ 学習した語や文法事項の使い方に関する知識を身に付け、適切に用いる。

7 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①ペア・ワークに積極的に参加し、互いに協力しながら会話を続けている。	①聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、自分の考えを書くことができる。 ②対話文の形式で、テキストに関する情報や自分の意見を話することができる。	①概要や要点とともに、登場人物の言動やその言動の理由等を捉えることができる。	①学習した語や文法事項の使い方に関する知識を身に付け、適切に用いることができる。

3 5 7 9	4 個人やペアで発表の練習を行う。 [指導上の留意点] ・教科書の内容を自分の視点で捉え、自己表現を促すように、音読のバリエーションを工夫する。 ・協働学習のためのワークシートを作成する。	関・意・態 の①	活動の観察
10	[ねらい] ・ペアで自己表現活動を行う。 [学習指導] 1 インタビューというコミュニケーションの場面を設定し、ペアで役割を決め、自己表現活動を行う。 [指導上の留意点] ・評価基準を明確にする。	表現の②	パフォーマンス テスト

9 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

- ア 概要や要点とともに、登場人物の言動やその理由などを捉える。
イ 語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付ける。

(2) 本時の視点

- I リーディング指導の段階に応じ発問を工夫する。それにより、生徒は文法、構文などを理解するとともに意味内容を正確に捉え、テキストの内容を正しく理解することができる。また、本文に書かれている事実を理解するだけでなく、テキストの主題を読み取り、自分とテキストのつながりを強く感じることができる。発問の工夫により、生徒に主体的に、さらには異なる角度からテキストを読ませる。
- II ICTによる、文字情報や視覚的情報の提示のタイミングを工夫する。Reviewの指導時にICTを活用することで、生徒の背景知識を活性化させるとともに、本時の主題への伏線をはる効果が期待できる。本時のリーディング指導は、主にwhile-readingの段階(生徒がテキストの情報を的確に読み取る段階、生徒が読み取った情報を基に思考を深める段階)に当たる。生徒の読みの過程に応じてICTを効果的に活用し、豊かな表現につながる深い思考を促す。

(3) 評価規準

①コミュニケーション への関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての 知識・理解
		概要や要点とともに、登場人物の言動やその理由等を捉えることができる。	語句や文構造、文法事項などについての知識を身に付けている。

(4) 本時の展開(6/10)

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動 及び 指導上の留意点	主な 評価の観点	評価方法
5分	1 Warm-up ・野球に関する 語句の確認	・野球に関する語 句を知る。	・ICTによる情報 の提示のタイミ ングを工夫する。		
8分	2 Vocabulary & Listening ・新出語句の確 認	・新出語(句)の確 認をする。 ・ペアによる練習 ・本文を聞いて、 英語の音声的 特徴を捉える。	・正しく発音でき るように支援す る。	・語句や文法事項 などについて の知識を身に 付け、適切に用 いることができ ているか。 (④)	・筆記テスト (後日)
28分	3 Reading I & II ・本文の概要や 要点の把握	・意味内容を考え ながら音読す る。 ・本文の内容理解 に関する教師の 発問に答える。 ・読解に必要な文 法事項について 理解する。 ・ワークシートに 記入する。	・英語の音声的な 特徴に注意しな がら音読するよ う指導する。 ・本文の理解を促 すような発問を する。 ・生徒のつまずき に応じて文法事 項を説明する。 ・生徒の反応に応 じて発問を工夫 する。	・本文の概要や要 点とともに、登 場人物の言動や その理由等を理 解しているか。 (③)	・ワークシー ト1
8分	4 Reading III ・読後の感想の まとめ	・本文を読んで、 最も印象的な箇 所を学習用PC に記録する。 ・ペアで互いの意 見を交換する。	・読後活動に必要 な英文を学習用 PCに記録する よう指導する ・ペアでの話合い が活発になるよ う指導する。		
1分	5 Wrap-up ・課題の指示と 生徒へのフィ ードバック		・生徒の意欲を引 き出すような motivational feedbackを与 える。		

《参考文献》

- ・文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 平成22年5月
- ・国立教育政策研究所 『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）』 平成24年7月
- ・伊東 治己編 『アウトプット重視の英語授業』 平成20年 教育出版
- ・田中 武夫・田中 知聡著 『英語教師のための発問テクニック』 平成21年 大修館書店
- ・卯城 祐司編 『英語で英語を読む授業』 平成23年1月 研究社